



年頭のご挨拶

「強仕」にふさわしい役割を～
沖縄の笑顔のために

沖縄総合事務局長 河合正保

新年明けましておめでとうございます。本年が、皆様方にとって実り多き年となりますようお祈り申し上げます。

沖縄が本土に復帰して42年、沖縄総合事務局も今年42歳の年を迎えます。

中国の古典四書五経の1つ「礼記」に由来する「強仕（きょうし）」という言葉があります（四十を強という、すなわち仕う）。40代になれば心身共に充実し、最大限の力を發揮して仕事に当たれる趣旨と解せます。

総合事務局がこの40年余の間、県民生活の向上や地域の発展に一定の貢献を果たしてきたと自負していますが、同時に「強仕」にふさわしい、更なる力の發揮が期待されているものと感じます。

一昨年、新たな沖縄振興法、跡地利用法が制定されました。県の主体性の發揮、主導的産業育成や地域活性化のための支援措置等の面で、これまでの枠を大きく広げる画期的な新法制になったと言えます。

法律に基づき総理大臣により決定された沖縄振興基本方針においては、この10年間の目指すべき方向性として、①沖縄の優位性をいかした民間主導の自立型経済の発展、②我が国及びアジア・太平洋地域の発展に寄与する21世紀の万国津梁の形成、③潤いのある豊かな住民生活の実現、が挙げられています。

改めて言うまでもなく、沖縄総合事務局は、沖縄に設置されている各府省の総合出先機関です。沖縄発展の新たなビジョンの実現とそれに向けた取組、特に総合性が發揮され、地域に密着した施策－効果的な社会資本整備、産業の高度化・新産業創出、人材の育成・確保、米軍施設等の跡地利用、防災対応等々に対する期待は、地元の方々からお話を伺う機会あるごとに、強く感じるところです。

昨年3月には、県内外の有識者等による沖縄フロンティア戦略会議（総合事務局主催）から、沖縄の持つ地理的優位性、潜在力、地域資源を最大限に活用した新たな成長戦略について、提言がなされています。

総合事務局といたしましても、こうした期待や要請に対応して、県・市町村始め関係各方面と緊密な連携の下、施策を展開してまいります。

最近の動きを見ましても、しまのゆんたく in 久米島、沖縄大交易会プレ交易会、九州・沖縄産業競争力協議会、クルーズ・シンポジウム in 沖縄、製薬会社による沖縄力発見ツアーなど、新たな試みが加速しつつあります。また本年も、北部億首ダムの供用を始め、伊江島、宮古伊良部や石垣島の国営かんがい排水、那覇空港の滑走路増設、那覇空港自動車道・沖縄西海岸道路、首里城復元整備等の諸事業において新たな進展が見込まれています。こうした取組を通じ、生活の向上や観光、物流、農業その他産業の活性化に直接・間接に寄与できるものと期待しています。

私自身この20年で3度目の沖縄勤務となりましたが、赴任する度に沖縄の発展・変貌に目をみはる思いを抱いたものです。同時に、多彩な自然や生活・文化、ホスピタリティーに満ちた温かい人柄など、沖縄の美しさに接して、その都度新鮮な感銘を受けています。中でも一番印象に残っているのは、県民の方々が時折のぞかせる笑顔の美しさです。今後、総合事務局の業務を通じ、県民の皆様の笑顔に接する機会がもっと増えればと感じています。

旅に生きた歌人若山牧水は「今日もまた こころの鉢を打ち鳴らし 打ち鳴らしつつ あくがれて行く」と詠じています。この思いを持って職務に当たってまいりますので、皆様からの御指導、御鞭撻のほど、よろしくお願ひいたします。